

# Library News

図書館だより No.41  
Nara National College of Technology

1996年7月 奈良工業高等専門学校図書館発行



## 目次

巻頭言 図書館は知識の宝庫 図書館長 中和田 武	1
卒業生からのメッセージ	2
読書感想文コンクールについて	4
心に残る一冊の本	5
図書委員メンバー	6
平成7年度図書館利用状況	7
お知らせ	7

(柳生の里・本校名誉教授 石垣 昭先生スケッチ集より)

## 「図書館は知識の宝庫」

館長 中和田 武

図書館は、平成8年4月8日より一般公開を開始しましたが、現在、74名の市民の方々が利用されています。今後、図書館は、「開かれた図書館」として、できるだけ市民の皆さんにご利用いただき、本校と地域社会の交流の場となれれば願っています。これからは学生諸君も図書館で、一般利用者とふれあう機会がふえることと思います。その時は、できるだけ「心で接する」よう努めて下さい。利用者の方々に十分満足いただけるだけの書物は所蔵していませんが、「ああ一きてよかった」と感じていただけるような雰囲気づくりをお願いします。学生諸君との心のふれあいを感じた市民の皆さんの投げた一つの波紋は、幾重にもなり近隣に広がり、本校は、名実共に地域社会の中で認知され、このことが本校の将来にかかわる大きなパワーとなって結集し、本校のさらなる発展に大きな力を与えてくれるものと確信しています。

ご承知の通り、一般公開をも含め、学生諸君の快適な図書館ライフをすごせるようにと学校では閲覧室の床改修をして下さいました。ジュータンの上で心ゆったりと読書に学習に励んで下さい。また、先生方は、貴重な研究費から、諸君のためにとCD-ROM用のパソコンを図書館に購入してくれました。まだソフトは購入できていませんが、逐次購入充実させて、諸君の学習支援をしたいと考えています。これらの事柄は、本当にうれしいことです。諸君は、学校ならびに教職員の意図するところを充分理解し、これまで以上に、学習に専念し、教養を身につけるべく努めて下さい。

平成7年度の図書館状況報告は、次の通りです。年間入館者は、延102,617人、そのうち時間内80,484人(242日)、時間外16,253人(180日)土曜日5,880人(31日)となっています。蔵書冊数は、年度末で77,341冊となっており、これは全国高専(平成6年度統計による)の中で、13番目の冊数です。ベスト3は、長岡高専106千冊、明石高専98千冊、苫小牧高専95千冊となっており、本校とはかなりの差があります。できるならば本校も早急に10万冊をそろえたいと願っています。しかしながら最近の年間購入冊数をみると、平成4年以来、年間2,000冊強の購入がありましたが、昨年度は、1,700冊台に落ち込みました。この分で行きますと予算削減に伴い年々低下の傾向が予測され蔵書10万冊は夢の夢物語となりかねないところへきています。何とか今、歯止をかけなければと苦慮しています。それにもかかわらず貸出冊数は、年々増加しています。平成5年2,000冊、平成6、7年1,000冊強単位で延びています。平成7年度は、15,439冊貸出されています。これは全国高専と比較してベスト5に入る結果であります。ちなみに全国高専貸出冊数のベスト4は、都城高専22千冊、宇部高専17千冊、豊田高専16.5千冊、鹿児島高専15.4千冊となっています。図書購入費の削減に伴い、新しい図書の充足が不満足な中で、諸君は、よく読んでくれたと感謝しています。学年別にみると、15,439冊中、4年生が24%、3年生23%、5年生17%、2年生16%となっており、1年生は10%どまりとなっています。専攻科生は少数にもかかわらず5%とよく読んでいます。また、軽読書化傾向がみられる今日、貸出内容を見ると、どうしてどうして、そのような傾向を吹きとばすかのごとく立派なものです。全貸出冊数中、工学技術34%、次いで文学22%、自然科学20%、芸術美術7%となっており、70%以上が専門書ならびに教養書であります。以上の結果から学生諸君は、思ったよりまじめに読んでくれていることがうかがえ、図書館にたずさわるわれわれは、大いにうれしく思います。本年度は特に専門書の刷新をはかります。ご期待下さい。

図書委員会では、本年度の重点目標として「読書生活の充実」—読書案内100選の活用と多読表彰—をとり上げました。昨年度の学生1人当たり貸出冊数は、13.5冊でした。本年は1人当たり20冊を目標に頑張ってください。この根拠は、読書案内100選を5年間で読破する冊数です。20冊読破が達成できると全

国1位の可能性がでてきます。この可能性に学生全員でチャレンジして下さい。

特に、前館長細井先生と委員の先生が選んで下さった読書案内100選にチャレンジしてみても如何ですか。本を読めば、その結果として、人間が一回りも二回りも大きくなったことを感じることでしょう。また、昨年できなかった多読表彰は、学生図書委員会と共に実施します。内容は、個人ではなくクラス単位で実施したいと考えています。月々のクラス別貸出結果を報告しますので、クラスとして読書に取り組み、クラス全員の知的レベルアップに努めて下さい。その結果はすぐに出るものではありませんが、長い人生の中で必ず役立つ時があります。「話を聞く」「本を読む」「文を書く」「ものを見る」ことの実践を通して、知性と教養、さらには人間性の向上に励んで下さい。その宝庫として図書館はあります。

## 卒業生からのメッセージ

### 高専生活5年間を振り返って

電子制御工学科 杉村 晃彦  
(奈良高専機械制御工学専攻)

専攻科に入学して早くも2ヶ月が過ぎようとしています。私は本校の電子制御工学科から機械制御専攻に進学しました。進学をしようとは以前から考えていましたが、一体私はどこで何を勉強したんだろうと悩んでいました。そこで今までの5年間を振り返ると、私は高専で勉強を受けてただけだと気づきました。勉強を受けると、するだけでは意味が全然違います。さまざまな現象の証明、公式だけを覚えるだけでは何の役にも立ちません。そこからどのように応用、発展させるのかがこれからの問題なのです。それならば、これからは自分で勉強しなければと決心すると、専攻科が私に最も適している場所と思いました。特に実験、研究重視のカリキュラムは他の大学にありません。友だちからは、若いうちに冒険しろとうるさく言われはしましたが、これで正解だったと思います。従って、順調に進めば同じ学校に7年間お世話になります。一般に6.3.3で12年と言われていたのに対し、6.3.7で16年とすごく語呂が悪いのが気になります。しかし、他の学校に編入した友達たちに比べれば、学校のシステムはほとんど変わりがないので、何事に対しても、取り組みやすいことは確かです。専攻科は一見暇そうなどころだと思われがちですが、確かに暇なところ

です。それは授業時間が少なくなっただけで、必修の特別研究、特別実験が2年間あるので、授業の時間以外でも、時間を見つけては、いろいろ調べ物があるので忙しいです。私の場合、5年生のときより今の方が、忙しい日々を送っています。そのため、図書館へは、よく足を運びます。本科生の時、図書館で困ったことは、本を一度に4冊しか借りれないことでした。あれも借りたい、これも借りたい、でも4冊まで。しかし、今は、専攻科生となっては6冊まで一度に本を借りることができます。その分帰りの荷物が重たくなるのがつらいところです。私が本科生の時、図書館で本を借りること自体は多かったのですが、読むことができずに返却してしまったことも多々あります。

その度に反省していたのですが、懲りずに繰り返してしまいました。今となって私が借りていた本を誰かが探していたのではと思うと悪いことをしていたと感じます。今後は自分のペースを考えた上で、図書館及び、他の学校の施設を十分に利用していこうと思っています。

### 高専生活の中での図書館

電気工学科 細矢 尚之  
(奈良高専電子情報工学専攻科)

五年間という長い高専生活の中で、私にとってこの図書館という空間はどんな空間だったのかを考えてみることにします。一年の最初の頃は、慣れない環境のせい、あまり余裕がなくひとまず、

同級生と親しくなることに努めていたこともあって図書館に行くことはほとんどありませんでした。まだあの頃は、お互いがどんな人かもわからないので昼食時も2、3人がぼそぼそと話しているだけでクラス全体が非常に静かで居づらかったのを覚えています。一年の後半から二年にかけて次第に、お互いに打ち解け合い親しい友人もでき余裕ももてるようになりこの頃からちょくちょく顔を出すようになり、この頃の私の図書館の利用法は昼休みや放課後のクラブまでの暇なときの暇つぶしに雑誌や漫画を読んだり、ビデオやLDを鑑賞したりしていました。特に夏場の暑いときは冷房が効いていて居心地がよく結構人が多くて騒がしかったのを覚えています。三、四年になると授業の課題や実験レポート、試験勉強が教科書だけでは間に合わなくなってきてこのために図書館を利用する時間が増えていき、五年になると今度は卒業研究のために利用するのがほとんどでした。こうして実際にこの五年間を振り返って考えてみると図書館で文学等を読むために図書館を利用したことがなく、高専生活の後半はほとんど勉強のためだけに利用していたことに気づきました。今、私は専攻科の一年ですが、この専攻科の面接試験の時、ある試験官の先生に「今までにどんな本を読んできましたか？」と聞かれ何も答えることができず、その先生に私は色々な本を読み幅広い知識や教養を身につけることが必要だと諭されました。その頃の私は心にゆとりがなく、図書館で本を読むようなことはありませんでしたが、私はこの言葉を心にとどめておき今後の学生生活では、もう少し心にゆとりを持ち本を読むことを心がけていきたいと思います。

## 正しい図書館の使い方？

化学工学科 吉野直美  
(奈良高専化学工学専攻)

1. レポートを書く
2. 宿題をする
3. 暇つぶし
4. 待ち合わせ

## 5. 本を読みに来る

## 6. 寝に来る

私が本科生の時、図書館を利用する目的はこれくらいでした。

私は“図書館”という空間が好きです。

まず、本がたくさんあること、それだけで、5年間良く通いました。ただ単に“本を見に来る”という時もありました。5とはちょっと違います。新刊が入る頃と気が向いたときに、本棚を眺めているのです。最近、私が入学した頃にはあまり見られなかったような、マイナーっぽいモノやオタクっぽいモノが増えてきています。(図書委員さんのおかげです) そんな本の背表紙を読むだけで結構楽しめます。

それから図書館は静かです。考え事やボーッとするのに最適です。夏は涼しく、冬暖かいし快適この上なしです。そうすると私は、お気に入りの窓際の隅の席で、6の状態になってしまいます。(冬はちょっと寒い。)

が、この静寂が破られる唯一の日がテスト前でしょう。このときだけは、“ここはデパートか？”という程のにぎわいを見せます。そしてこのときに苦勞するのが席取り。

この席取りにもコツがあります。

確実にとりたいときは自分のノートとかを朝一番に置いていました。図書館の本では目を離している間に移動させられることがあったのでやめました。ときには、友達と組んで大テーブルをとったりしました。(こういうときは、他人の迷惑なんて考えてません！)

以上、私の本科生時代における図書館の利用法(?)を並べてみました。ここらでみなさんに一言、言わせてもらいましょう。本は低学年のうち読みこなしておきましょう。学年があがるに従って、好きな本を読む時間(“暇”とも言う)はどんどんなくなっていきます。代わりに、専門書などを読まなければならなくなるからです。

それから図書館を本を読むだけの場所として利用するのではなく、視聴覚機器もあることだし、独自の利用方法を考えていくのがおもしろいでしょ

う。そのためにも、用がなくても足しげく通ってみるとよいでしょう。きつとなにかおもしろいことが思いつくかもしれません。（ただし、図書館の静寂を乱さないようにしましょう。）

## 奈良高専の図書館

専攻科 機械制御工学専攻

竹田 貴博

（豊橋技術科学大学大学院）

矢田より田舎な天伯丘より合言葉はビー、機械制御専攻3期生の竹田と申します。図書館だよりに図書館のことを何か書いてほしいという話が来ましたので、そうですね、奈良高専の図書館が、竹田の目にはどう写っていたかということを書きましょう。

- 図書館は「館」というより「室」だった。  
本科にいたときから、専門系の書籍が少ないと感じていた。専門科目の先生方、これはと思う本を、どんどん入れてあげてください。専攻科もできたことですし。
- 図書館は勉強する場所だった。  
当然。けっして、雑談をする場所ではない。若い諸君、図書館は静かなのが当たり前ですよ。必要な話でも、必要最小限で。図書館を談話室にしないように。
- 図書館は畑だった。  
図書館には、「RJ」や「BJ」、「SFM」などのおいしい野菜が生えていました。頭が疲れてくると、よくこれらを食べていました。趣味もまた大事。どの雑誌も、まともに買うと1000円ぐらいするものですから大助かりでした。
- 図書館は時にユンケルと化した。  
本のみならず、映像、音楽ソフトもおいてある図書館。上に書いた野菜では回復が遅いときは、ユンケルがごとく、あるCDを聞いて頭を元気にしていました。ホルストの組曲「惑星」の「木星」を聞けば、あなたも萌え萌えです。  
ちなみに、豊橋技科大の図書館といえますと、電制棟の倍ほどの規模で、1階が資料室、2階が工学系雑誌（半分が英文）、3階が参考書類

になっていて、こんなところで勉強以外何ができるねん、というぐらいどこから見ても図書館です。

10代後半の、脳みその糧になってくれた奈良高専図書館に感謝。そして、図書館の世話役であった図書係の皆様へ感謝。学生の皆さん、騒ぎすぎて図書係の人達を困らせないようにご注意ください。

## 平成8年度読書感想文コンクールについて

読書感想文コンクールは、今年度で第21回目を迎えることになりました。

今年度は、この伝統あるコンクールをより一層内容のあるものに充実してほしいものです。

ついでには、3年生以上の学生諸君からの力作が多数寄せられることを期待しています。なお、参考図書として推薦されました本は下記のとおりですが、この他にも興味のある本があれば、自由に選んでも構いません。

### ☆文学作品

大きな森の小さな家（ワイルダー）講談社文庫／飛ぶ教室（ケストナー）講談社文庫／太郎物語—高校編（曾野綾子）新潮文庫ほか／銀河鉄道の夜（宮沢賢治）角川文庫ほか／地獄変（芥川龍之介）角川文庫ほか／変身（カフカ）新潮文庫ほか／落日燃ゆ（城山三郎）新潮文庫／竜馬がゆく（司馬遼太郎）文春文庫／レ・ミゼラブル（ユゴー）新潮文庫ほか

### ☆文学作品以外

戦後プロ野球50年（近藤唯之）講談社文庫／超常識（森政弘）PHP文庫／日本コンピュータの黎明（田原総一郎）文春文庫／空想自然科学入門（アシモフ）ハヤカワ文庫／脳の話（時実利彦）岩波新書／夜と霧（フランクフル）みすず書房／知りたがらない日本人（M・J・バルボ）柏書房／黒人の誇り・人間の誇り（ローザ・パークス）サイマル出版会／エイズと生きる時代（池田恵理子）岩波新書

# 心に残る一冊の本

—〈あなたにも薦めたい〉— (その7)

## 『星々の悲しみ』

宮本輝 著 (文藝春秋)

機械工学科 (数学) 安田智之

七編の短編小説からなる。最初におかれているのは、この短編集の表題にもなっている『星々の悲しみ』である。「その年、ぼくは百六十二篇の小説を読んだ」でこの小説は始まる。何故「ぼく」がそんなに沢山の小説を読んだのか。というより寧ろ読まなければならなかったのか。それは「ぼく」が人間の生というものに見入らざるを得なかったからだ。同じ理由で「ぼく」は「星々の悲しみ」という題の油絵に見入る。そうして、この絵しか残さず二十歳で逝ってしまった画家はそこに何を塗り込めたかったのか、ということを探り続けたいのである。この絵は実は「ぼく」の行き付けの喫茶店にあったものだ。予備校をサボって、そこで友人のAとKと話をした最初の日、Kは大きなその絵を盗み出してしまう。「ぼく」が会計を済ますことになり、その前にトイレにいらしている間の出来事であった。そもそもその行動は「ぼく」の「あの油絵と、図書館で逢うた女の子を盗んできてくれよ」という難題の吹きかけから起こされたことだ。従って絵は「ぼく」の家に運ばれ、「ぼく」はその日から「星々の悲しみ」と否が応でも向き合うことになる。それは人間の生と、その裏づけである死に向き合うことに他ならない。絵を盗み出したのは春であった。その年の秋の終わりにはAが死んでしまう。しかしAにはそれまでに読んだ沢山の小説が語れず、夭逝の画家にも描けなかった生の本質の断片を彼の死後与えてもらうことになる。それは「星々の悲しみ」を喫茶店への昇り口に返した帰途での事だった。絵から解放されたことは象徴的な出来事でもある。

『星々の悲しみ』で「ぼく」が絵に見入ったように他の六編の小説でも、主人公があるものに見入る場面がある。そこではこちらも固唾を呑んで対象に見入らざるを得ない。そうして生と向き合うのだ。『西瓜トラック』では「大きくて赤いもの」とそれにつながる「子を連れた女」、『北病棟』では「市立病院の灯と背後の薄明り」、『火』では「マッチの火」、『小旗』では「赤い小旗をふっていた青年」、『蝶』では「翅をひろげた色とりどりの蝶」、『不良馬場』では「一枚の五百円札」とそれが賭けられた「五番の馬」。読者はこれらのものから自分は何の説得もされないとあてかかって結局見入らざるを得ない。ミイラ取りはミイラにならざるを得ない。ならばやっぱりしかの筈だ。

## 『幽霊』

北 杜夫 著 (新潮文庫)

機械工学科 広 和 樹

この本は、副題に「或る少年の青春の物語」とあるように、フィクションですが著者の記憶や、体験を基にして書かれたものです。全4章からなっており、幼少の頃や少年期のなつかしい記憶を再現しています。

16か、17才の頃、私は、何となく題名にひかれてこの本を読みました。最初は、なぜ「幽霊」なのかよくわからなかったのですが、そのうちにゾクッとするような(たぶんフィクションだと思う)ことが書いてあり、さらに読み進めていくといままでの自分と重なるような部分もあり、理屈抜きにこれはおもしろいと思いました。

時代背景が古く現在とはマッチしないかもしれませんが、興味ある人はぜひ読んでみて下さい。

# 『天空の舟』 (上・下)

宮城谷昌光著 (文春文庫)

化学工学科 河越 幹 男

中国の古代王朝は、今の学説では、夏に始まり商、周と続く。商は後に殷とも言われ、むしろ殷の方が一般には通りがよい。標記の本は夏王朝から商王朝への革命期（この革命は現在の革命とは少し意味が異なり、文字通り、天命があらたまるという意味である）に商の湯王を補弼して革命を成し遂げ、後に名宰相とうたわれた伊尹の物語である。

時代背景は伝説の時代から歴史時代に入ろうとする頃である。文字はまだない。話は洪水から始まる。洪水によって付近一帯の村々は殆ど全滅するが、一人の幼児が母親によって桑の大木の空洞に入れられて助かる。桑は古代にあっては神木であった。葉は蚕の餌、実は酒、幹は建材になったからである。下流に漂着した幼児は神木から生まれたというので大評判になった。この幼児が後の伊尹である。伊尹の一生を追って、夏王朝の没落と商王朝の勃興が描かれている。何しろ太古の時代の話であるので、神懸かった部分もあるが、人間の本質をうまく描いている。読後感は爽快であった。ゴツゴツとした硬い岩石を苦勞して割ったその中に、煌めく宝石を見たような気持ちにさせられた。

この作者は漢字に対する興味が小説を書く情熱の源になっていると言うだけあって、この本にも今まで見たこともないような難しい漢字がドッサリと現れる。しかし、それが少しも苦にならないどころか、それがスパイスの役割をしてこの本に独特の味を与えている。漢字の成立過程や語源の説明もあり、それがまた面白い。商の湯王が伊尹を幕下に招く際に、伊尹の草庵を湯王が三度訪れて懇願している。三顧の礼である。我々が良く知っている三顧の礼は、ずっと後の時代の三国志に出てくる諸葛孔明と蜀の劉備のことである。伊尹と湯王の方が本家である。また、我々が現在使っている商人しょうにんという言葉は、実はこの時代において物資の移動を生業とした商の人、すなわち商人しょうびとが語源であるようなことも説明されている。

この作者には、古代中国を扱った小説が多く、この本の続編とも言うべき「王家の風日」は商王朝から周王朝への変革期を題材にしている。一読することをお薦めする。

## 平成8年度 (1996年度) ・ 図書館委員会スタート

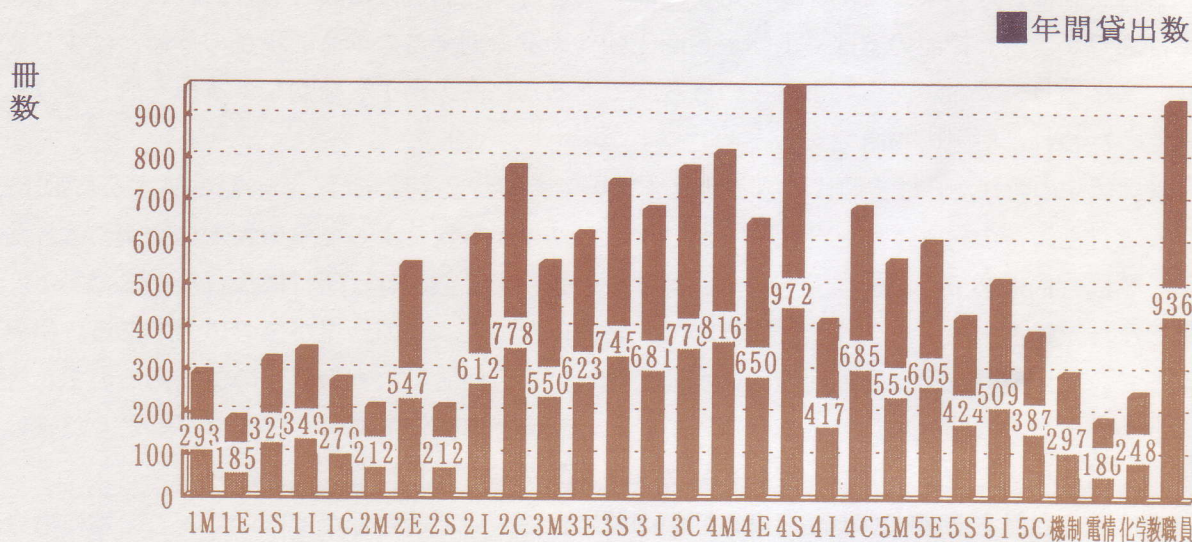
本年度の図書館委員会と学生図書委員会のメンバー及び役割分担が次のように決まりました。

図書館委員会			学生図書委員会					
館長：中和田 部会長：押田・矢尾・中村 (事務部：阪井・福井・清水)			委員長：4 M板坂 副委員長：4 C田村					
図書部会	視聴覚部会	研究紀要部会		M	E	S	I	C
押田・細井 福嶋・広 宮田・中村 永田・河越 石丸	矢尾・福嶋 宮田・押田 近藤・石丸	中村・細井 広・中田 永田・河越	1	芳賀	山本	高野瀬	岡本・吉田	山岡
			2	木田	佐々木	大槻	出水	黒田
			3	中川	林	山末	村上	水谷
			4	板坂	小田・岸根	波多野	田中・仲上	田中・田村
			5	立上	山本	登坂	菊山	東岡

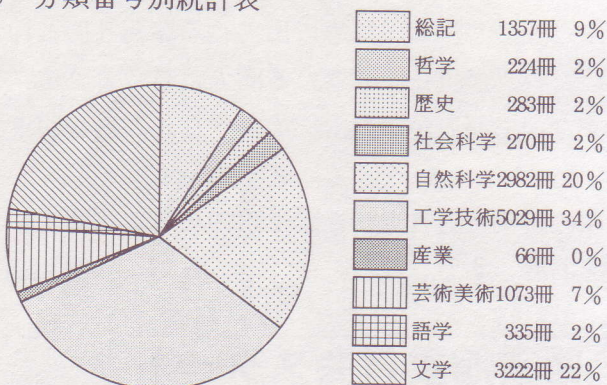
図書館委員担当曜日					学生図書委員貸出当番表				
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
中村 永田	細井・広 宮田	福嶋 石丸	中和田	矢尾・中田 押田・河越	2 I 出水	4 I 仲上	1 S 高野瀬	3 C 水谷	4 C 田村

# 平成7年度図書館利用状況

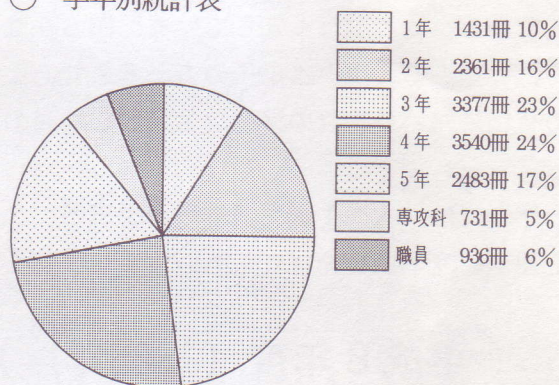
## クラス別統計表



○ 分類番号別統計表



○ 学年別統計表



### 図書館からのお知らせ

夏季休業中の図書館の開館時間等は以下のようになります。

開館時間 平日 8時30分～17時  
土曜日 夏季休業中休館

休館日 8月5日(月)～8月16日(金)

貸出冊数 6冊(7月8日より)

夏季休業中、心に残る本との出会いをぜひ!!

### 編 集 後 記

卒業生、専攻科修了生の皆さんから図書館にメッセージを頂きありがとうございました。また、第7回となりました「心に残る一冊の本」に3名の先生方にご執筆いただきありがとうございました。

本年度より図書館の一般市民開放も始まり、ますます本校図書館の重要度も増してきています。ますます図書館が広く利用されることを願います。  
(委員一同)